

輪王寺宝物殿

宝物殿では、国宝 1 点（59 点の巻物群）、重要文化財 51 点、重要美術品 7 点など、過去 1250 年間の宝物を約 3 万点の遺物を収蔵している。展示室では、特別展のほか、一度に約 50 点の遺物を期間毎に展示している。宝物殿は、1984 年に住職の住居であり、主務所だった本坊跡に建てられた。

風神・雷神

風神・雷神は兄弟であり、対として描かれることが多い。千住観音を守護し、嵐や病気を防ぐと考えられている。これらの像は 17 世紀のものである。元々は、東照宮の陽明門、次に大猷院の二天門に立っていた。

千手観音御正体（重要文化財）

千手観音は、輪王寺に祀られている三大本尊の一つで、男体山の姿に化身していると言われている。男体山は千住観音の姿を現しているといわれ、輪王寺に祀られている三大観音の一つである。この千住観音像は、12 世紀に鑄造銅合金で作られた。当時の宗教的な融合を代表する神仏一対の像の仏教的な半面像と考えられ、また、鏡の裏面を模したものの可能性もある。同時期の鏡には三輪菊の文様はよく見られたが、このように仏様の放つ光輪の中に組み込まれることは稀である。

逍遙園

この庭園は、17 世紀初頭に建てられたものである。元々は本坊の一部だったと言われているが、当時、輪王寺の住職が皇太子だった頃のものである。この池は、京都の北東にある琵琶湖を模して設計されている。琵琶湖は天台宗延暦寺のある比叡山の近くにあるため、住職や僧侶にとっては身近な存在であっただろう。南には那岐虫山、西には南台山、北には如法山、赤蘘山を望めるように設計されている。1815 年の大改修を経て、明治時代（1868～1912）にさらに改修が行われた。